

④ IJUターン推進

【現状・課題】

- ①県内にはIJUターン学生の受け皿となり得る優れた中小企業があるが、学生や保護者に優れた中小企業の存在が十分に知られていない。
- ②高等学校卒業者の半数近くが県外に進学しているが、その後の就職状況は不明である。
(平成23年3月卒業生 5,612人 うち県外進学者2,722人、48.5%)
- ③県内大学に在学する県外出身学生の中で県内に就職する者は極めて少ない。
(平成23年3月卒業者のうち就職希望県外出身者538人 うち県内就職者57人、10.6%)

【現場の意見】

- ①県内には小さくても業績の良い業種や企業がある。保護者を含め鳥取県に帰って来たい者に、紹介する機会やツールを設けてほしい。
- ②学生は、自分の行きたいところが県内には見つからない。関東や関西にある、として県外へ流れていく。
- ③保護者は知らない企業への就職を反対しがち。県内企業情報を分かりやすく紹介することが必要。
- ④県外へ進学した学生が、どの程度帰って来るかという視点が大切。

【雇用創造への展開方向】

- ①学生、保護者への就職関連情報の的確な提供
- ②本県出身学生の就職状況の把握について検討
(アンケート調査による分析など)

【目標】

- ①企業就職を目的とする移住者の増加
- ②本県出身学生の県内就職率の向上
- ③県外出身学生の県内定着率の向上

【目指す姿】

- IJUターン受入先としての鳥取県の「働く」魅力を高める。
- 若者の県内就職率、県内定着率を高めることにより、活力ある鳥取県を目指す。

【主な事業】〔※②④:24年度予算額、③:23年度予算額、単位:百万円〕

- ①ふるさと就職促進事業【拡充】〔②④11 ③8〕
 - ・保護者宛てに大学・短大の就職活動年度に就職関連情報を送付
(23年度高校卒業生から実施)
 - ・東京・大阪に配置のコーディネーターによる就職相談、県外大学との連携
(大阪に大学訪問担当1名増員)
- ②Uターン状況実態調査【新規】〔②④1 ③ー〕
 - ・アンケート調査による実態把握

IJUプロジェクトのスキーム

